

1. 実況上の着目点

- ① 日本海北部～沿海州付近には500hPa -42℃以下の寒気を伴った5160～5220mのトラフがあって、北日本を中心に強い寒気が流入。
- ② 千島の東と日本のはるか東には低気圧があって、日本付近は強い冬型の気圧配置が続いている。北～西日本の日本海側を中心に降雪となっており、多い所で3時間10～20cmを観測。東日本日本海側では、雷を検知。
- ③ 強い冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなっており、全国的に雪を伴った強い風が吹いて、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、9日朝にかけて北日本付近を通過する。1項②の千島の東の低気圧は、11日にかけて発達しながらアリューシャン近海へゆっくり進み、日本付近では、9日まで強い冬型の気圧配置が続く。北～東日本は500hPa -39℃以下、北～西日本では850hPa -9℃以下の寒気移流が続いて大気の状態が不安定となり、大雪となる所がある。東日本では、9日は大雪による交通障害に警戒。北～西日本では9日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 東日本の日本海側では、11日にかけて下層風が収束し、局地的に大気の状態が不安定となる所がある。東日本では10日～11日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ③ 大陸にある高気圧が10日は東シナ海、11日は西日本へ移動し、冬型の気圧配置は次第に緩むが、北～東日本では850hPa -9℃以下の寒気が残るため、日本海側を中心に降雪が続いて大雪となる所がある。北～東日本の日本海側では10日～11日にかけて、大雪、着雪やなだれに注意。
- ④ 強い冬型の気圧配置や、2項①の低気圧と2項③の高気圧との間で気圧の傾きが大きく、雪を伴った強い風が吹いて、しけとなる所がある。南西諸島や西日本では10日にかけて、北～東日本では11日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：東北50、北海道・北陸・関東甲信・東海40、近畿30、中国20、九州北部10cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸・伊豆諸島・小笠原諸島5、近畿・中国・沖縄4、東海・九州北部・奄美3m。
- ④ 高潮(明日まで)：北日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雪と暴風雪及び高波に関する全般気象情報」(終了情報)を05時頃に発表予定。